

平成 30 年度地域課題研究助成の報告

1. 研究課題名

短期入所施設の看護師が長期利用者のケアにおいて認識する課題

2. 研究代表者及び所属

細道奈穂子

3. 研究メンバー

細道奈穂子<sup>1)</sup>

1) 一般社団法人新潟市医師会

4. 学内責任者

新潟県立看護大学 平澤則子

5. 研究経費執行額

	旅費	報償費	役務費	需用費	合計
執行額(円)	37,770	0	23,520	8,820	70,110

6. 研究の概要

A 市における短期入所長期利用の実態と、それに関連して短期入所固有の状況のあるなか、看護職が課題として認識していることを明らかにすることを目的とした。

短期入所 162 施設の看護職に対し、2018 年 10～12 月の 3 ヶ月間に 31 日間以上連続して利用した人の状況、健康管理、連携、施設入所者への看護と比較して課題と感じていることについて、無記名自記式質問紙調査を行い、単純集計ならびに記述回答についてはカテゴリー化した。

施設からの回答数は 46 (回答率 28.4%)。31 日間以上連続利用した人がいる施設は 36 ヶ所、利用者は 387 人だった。

詳細が記載されていた 254 人は要介護 3 が最も多く、要支援も含まれていた。利用理由は、「入所待機」が最も多く、「2 年以上の継続利用」が 2 割あった。病院～直行での利用が 4 割弱。「褥瘡の処置」など医療的ケアの必要な人は 2 割弱であった。

「ADL 低下予防」「低栄養予防」「転倒予防」「オムツ外し」「スキンケア・褥瘡管理」「口腔ケア」の全項目において、“積極的に取り組んでいる”という回答は少なかった。主治医やケアマネと直接やりとりができない状況もある。サービス担当者会議への参加も 2 割であった。

自由記述から、[ご家族の協力が必須][主治医から直接指示をもらえない影響][方向性が不明瞭][本人の精神的な落ち込み]など 10 個のカテゴリーに分けられた。

短期入所を担当する看護職は、早期治療への遅れや機能低下を危惧していた。

7. 今後の学会発表の予定

- ・有 (地域看護学会)